特殊金属エクセル

品質マネジメントシステム
自動車産業の規格取得へ

特殊金属エクセル（本社＝東京都豊島区、谷口毅社長兼CEO）は2021年内をめどに、埼玉事業所（埼玉県比企郡ときがわ町）において自動車産業の品質マネジメントシステム「IATF16949」の認証取得を目指す。「IATF16949」の認証を取得する鉄鋼関連企業はまだ少なく、注目される。

「IATF16949」は、自動車産業に特化した品質マネジメントシステムに関する国際規格で、「不具合の予防」「サプライチェーンにおけるばらつき・ムダの低減」「継続的改善」という要求事項を規定。同規格は世界の自動車メーカーが自動車部品のグローバルな調達基準として採用している。

同社では、「自動車部品向けでは、センサーなど高い精度が求められるデジタル制御関連への材料供給が増えており、電子機器・電子部品の割合が急速に拡大している」（谷口社長）という。自動車メーカーに納入している電子部品会社の多くから、世界の自動車メーカーが調達基準に採用する「IATF16949」の認証取得を要請されたことを契機として、21年内での取得を目指し、19年度内にプロジェクトチームを編成してキックオフする計画だ。

特殊金属エクセルは、特殊鋼・ステンレス・各種金属の精密冷延技術をコアに、諸技術要素（クラッド・塗装・はんだ処理・異形）の複合材料も開発・製造する。同社は『Be a Niche-Top!』（多岐にわたる用途市場の専門技術分野でシェアナンバーワンになる）を企業スローガンに掲げる。同時に、19年から『NEXT-1戦略』（ネクストワン戦略）を始動しており、新しい材料を開発・実用化することで医療などの新規分野開拓、自動車など既存分野の深掘りを達成し、月間1億円の売り上げ増に繋がる次世代事業柱の育成に取り組んでいる。「IATF16949」の認証取得はこの活動の一環であり、需要家に同社のQCD（品質・コスト・納期）の強みや、これに基づく高いレベルの対応力などをアピールし、収益力向上を図っていく。

企業体質強化を推進
独自技術でニーズ捕捉

特殊金属エクセルは、企業体質の強化に取り組んでいる。

特殊金属エクセルは自社開発の圧延技術を駆使して、磨帯鋼などの特殊鋼やステンレス、銅合金やニッケル基合金などの各種素材を冷間圧延加工し、JIS規格外や需要家が求める板厚公差を実現している。同時に、ターゲットとする材料仕様を生み出す炭化物制御や、独自の組織制御と複数の加工技術を組み合わせた複合高機能材料を製造。国内拠点をはじめ、海外に4つの関連会社を持つ。

谷口社長㊧と水谷取締役

同社はより強固な企業体質を構築するため、17年1月に特殊金属エクセルからトッキンHDに社名を変更し、同時に会社分割によって特殊金属エクセルを新設した。高い技術力で需要家ニーズを捕捉した結果、業績は好調。18年12月期決算では売上高が67億円（連結107億円）で、経常利益は2期連続で過去最高を更新している。

また、同社として初めて制作する企業ブランディング映像『Be a Niche-Top!』（多岐にわたる用途市場の専門技術分野でシェアナンバーワンになる）を19年3月下旬に同社ホームページ上（https://www.tokkin.co.jp/）で公開した。オープンコラボレーションを通じてWeb、コンテンツ、コミュニケーション、空間などをデザインするクリエイティブ・カンパニーであるロフトワークに制作を依頼し、構想から1年を経て完成した。「リーマン・ショック以降、収益で苦しい時期を乗り越え、16年12月期決算から業績がV字回復した。『多岐にわたる用途市場の専門技術分野で生き残り、シェアナンバーワンになる』という当社が進むべき方向性が定まってきた。ブランディング映像が完成したことで、製造設備などハード面だけでなく、ソフト面も強化し、全社での一体感を醸成していきたい」（谷口社長）との狙いがある。

Metal has supported the development of mankind.
It has changed our history.

TOKKIN corporate movie. Be a Niche-Top! 株式会社特殊金属エクセル

企業ブランディング映像

また、『Smile100』活動も展開中。「働きやすい職場環境を整えることで、従業員満足度を高め、定着率100％を目指す」（水谷徳次郎取締役兼COO）考え。広く従業員の意見を聞き、会議室や食堂、浴室等をリニューアルするなど職場環境の改善に注力。またパート従業員の表彰制度も設けており、企業体質を見直すことで、1940年創業の老舗メーカーはさらなる飛躍を図っていく。